

—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：女性事情

(7月1日-15日報道取り纏め)

サウジアラビアにおける7月前半の女性関連動向（報道取り纏め）は以下のとおり。

1. 労働市場・雇用関係

(1) 「女性はレストランでの勤務が可能：勧善懲悪委員会による発表」

7月4日付サウジ・ガゼット紙（2面）

女性・家族専用のレストランであれば、女性がウェイトレスとしてレストランで働いて良いと勧善懲悪委員会によって発表され、アブドラッティーフ同委員長が「この職種はイスラームのルールを犯していない」と述べた。これは女性の就労に関して労働省と結んだ覚書の内容にも沿っているものだという。同委員長は客と店員が女性のみであれば、下着店の他にも家具販売店、台所用品店、電化製品店、玩具店においても労働力の女性化が必要であるとも述べた。

(2) 「女性企業家たちがジェンダーギャップを乗り越える」

7月6日付アラブ・ニュース紙（5面）

近年の政策により多くの女性企業家がサウジで花を咲かせている一方で、多くの問題も山積みとなっている。この問題は、サウジの保守的な文化であったり、資金に関連するものであったり、機会や職業訓練など様々である。中でも、女性がリードするビジネスは広がる一方であり、雇用機会均等など明るい兆しを見せ始めている。教育がさらに女性の積極性を与え、失敗する恐怖を取り除くであろうとの意見もある。また、仕事をまず始めることで自信や経験につながり、将来自ら起業することにつながるという。インタビューを受けた多くの女性が、サウジに社会的障害が存在することは認めるものの、何よりも大事なのはこれを乗り越え、男性同様に成功し、より安定した公平な職場環境のためにグローバル・トレンドの一部になることであると意見を一致させた。

(3) 「労働力の女性化により経営に打撃」

7月9日付サウジ・ガゼット紙（2面）、アラブ・ニュース紙（1、2面）

7月12日付サウジ・ガゼット紙（1面）

女性ファッション（アバーヤ・下着・化粧品等）の店を経営する経営者たちは、労働省が行っている労働力の急激な女性化により、定められた期間中（7月7日まで）に女性を雇えず、店舗を閉鎖することになるなど経営困難に陥っている。実際に女性を雇用できた経営者たちにとっても、女性従業員は職務経験がなく、遅刻・欠勤が多いなど勤務態度に問題があるにも関わらず、高い給与が求められるなど問題となっている。逆に多くの男性販売員が職を失い、経営者の多くは当局がこの制度を再考することを求めている。一方労働省は店舗の女性雇用状況を監視するために新たに45名の女性職員を雇った。

(4) 「労働販売員が不公平な扱いに抗議」

7月13日付サウジ・ガゼット紙（2面）

多くの女性販売員は、職業安定の確保が全くもしくはほとんど出来ていないとして抗議を行った。若い男性からのセクシャル・ハラスメントや、雇用者からの一方的な減給なども受けていること、さらには経営者が清掃員を雇わないために、女性販売員自らが客の前で掃除することに対しても抗議した。

2. 内政

(1) 「離婚した女性の権利拡大を諮問評議会が求める」

7月11日付アラブ・ニュース紙（4面）

諮問評議会の一人であるイーサ・アル・ガイトフ氏は、離婚するに当たって手続きに必要な書類の手続きが遅れるために、女性が直面する問題が多いと述べた。男性は離婚後に妻に支払う生活費や、手当の支払いを免れるために離婚の事実を隠そうとする事が多く、これを避けるために書類手続きをある一定期間内に完了することを定めた離婚に関する法律を成文化すべきであると提案した。

3. 文化・教育・その他

(1) 「海外で学ぶ女子学生」

7月10日付サウジ・ガゼット紙（3面）

サウジ人女子学生がマハラムを同行せずに海外の大学等で学ぶことに関して、様々な議論がなされている。マハラムなしにはリスクが高すぎるとの声がある一方で、マハラムが多くの女子学生の将来を壊しているという反対の声もある。ジェッダに住むキング・アブドルアジーズ大学の卒業生（女性）は、男性でも女性でも海外に住むことは困難であり、だからこそマハラムは保護のために必要だと述べる一方、海外に住むサウジ人女子学生は、マハラムがいてもいなくても海外に住むことで直面するリスクは変わらず、逆に誰にも頼らず生活することで自信につながると話した。

(2) 「サラ・アッターール選手 さらに前進を」

7月10日付サウジ・ガゼット紙（3面）

サラ・アッターールはロンドンオリンピックの陸上競技に出場した初のサウジ人女性である。カリフォルニア州で生まれ育った20歳のアッターールはサウジ・ガゼット紙の単独インタビューに応じ「小さいときから父親の薦めもあり、スポーツには積極的に参加していました。友人の誘いで陸上を始め、スポーツは私の人生の一部となりました。」と過去を振り返った。昨年のオリンピック出場により、サウジ国民からの反響を受け「サウジにとってこれが非常にインパクトがあり重要で影響力があるだろうという事に気がつきました。すばらしい経験であったし、この経験が今後の世代への良い刺激になったことがとても嬉しいです。」と語った。さらに「次回オリンピックではサウジ人女性の出場がより増えることを確信しています。熱意と前向きな気持ちさえ持ち続けていれば、どんな夢でも叶います。サウジ人女性たちへ、さらに前進を！」とファンやサポーターたちに呼びかけた。

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799